

ブルーベリーの生育に及ぼす土壌要因の解明

ハイブッシュブルーベリー(以下、ブルーベリー)の生育を良好にするためには、**仮比重が小さく、孔隙率が高く、全炭素含量が多くなるような土づくり**が必要なので、定植時にピートモス、定植後に有機物マルチを施用しましょう。

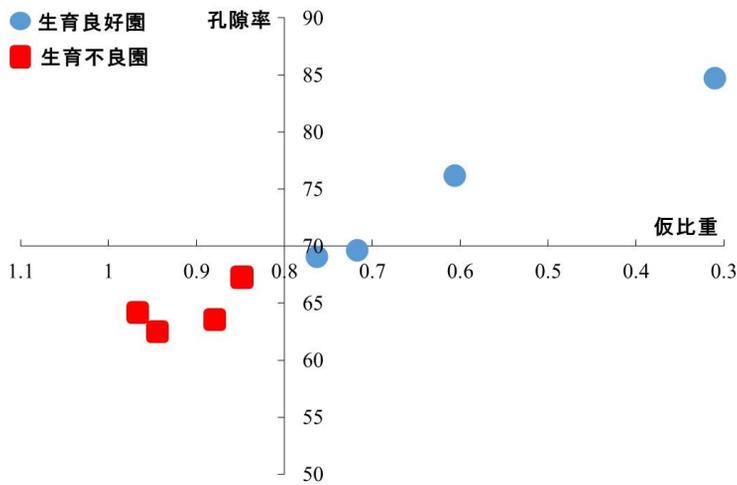


図:ブルーベリー園地の仮比重と孔隙率が生育状況に及ぼす影響

表:ブルーベリー園地の土壌管理、土壌化学性と生育状況

園地	土壌管理		土壌化学性	
	ピートモス	有機物マルチ	全炭素含量 (%/乾土)	pH
生育良好園	有	有	11.2	5.9
生育不良園	不明または無	有または無	5.1	5.9

注)調査は4園地ずつ、土壌管理はH30年、土壌化学性はR3-4年の平均値



写真 上:生育良好園の樹
下:生育不良園の樹

【生育良好園の特徴】

- ・ピートモスと有機物マルチの施用が共通して行われています。
- ・仮比重が小さく、土壌は膨軟で、孔隙率が高く、保水性と排水性に優れます。
- ・有機物の施用により、全炭素含量が多い土壌です。
- ・pH(土壌酸度)は、生育不良園と比較して差が見られません。

【ブルーベリー栽培における土壌管理について】

- ①定植前には土壌分析を行い、土壌酸度矯正に加え、**ピートモス等を施用し、物理性の改善と有機物含量の向上を主眼とした土壌改良**を行きましょう。
- ②定植後は、表土へ樹皮やチップ等の**有機物を定期的に施用(マルチ)**し、**物理性と有機物含量を維持**しましょう。
(目標値:仮比重**0.8以下**、孔隙率**70%以上**)